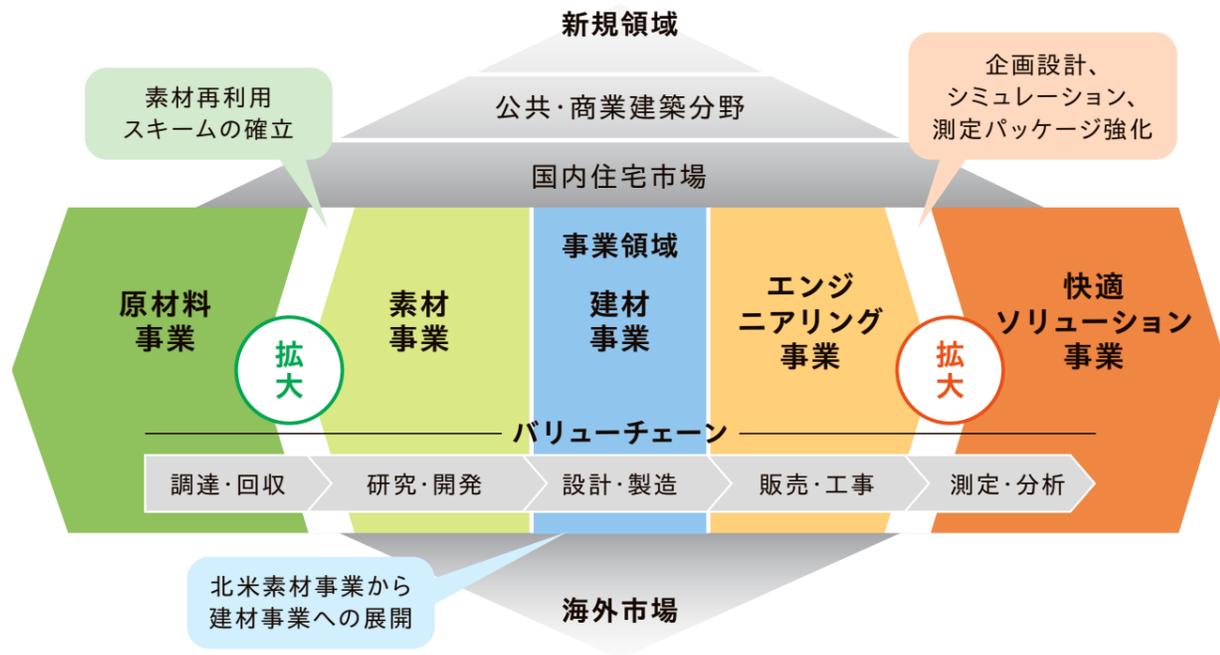


次の10年を創る総合力

幅広い分野からのニーズに応えるため、これまで培ってきた素材・建材・エンジニアリングの3事業を軸に、素材事業の上流に原材料事業(回収・再利用などを通じた原材料の有効活用を図る事業)、エンジニアリング事業の下流に快適ソリューション事業(空間の快適性に関する顧客課題を解決する事業)へと領域を拡大し、川上から川下まで一貫通貫で提案できる環境をつくります。

10年後の事業領域



Voice of Executive

建装事業本部ではグループ工務会社やpoint 0をはじめとした共創に注力し、そのシナジーを活かした快適ソリューション提案の取り組みを始めています。昨年度は40年以上の事業実績がある「音」に関する提案を強化すべく、部門の垣根を越えた「音環境ソリューション」プロジェクトチームを発足し、従来のモノ売りにとどまらないコト提案へと舵を切りました。その第一歩として、音の広がりや響きを可視化・可聴化する『音マップ Pro』というサービスを市場投入し、オフィスを中心とした公共・商業建築分野での技術確立や新たな企画・開発を着実に進めています。2025年11月には新たな音研究施設である『音ラボ』の竣工を予定しており、これまで他社との共創で培ってきた実績と当社の技術力の相乗効果により、音環境ソリューション事業はさらに加速していくでしょう。「音」から派生し、「温熱」「におい」「空気質」といった五感への「ここちよさ」を訴求する快適ソリューション提案は、企画開発から販売・工事までを一貫通貫で行うことで、プロダクトアウトからマーケットインへの転換を

目指しています。快適ソリューションを事業として確立するためには、提案力・工事力・ガバナンスの強化が必要不可欠であり、伊藤忠グループネットワークを活用した営業連携などを含め、製販一体の取り組みがますます重要になります。「GP25」最終年度となる2025年度は快適ソリューション事業の基礎を十分に固め、次の10年を創る「シン」事業創出に向けた勢いをつけていきたいと考えています。



建装事業戦略部 部長
高桑 健一

「事業を通じた価値創造」に向けた取り組み

事業を通じた価値創造
持続可能・循環型社会の実現



サステナブル素材で“海洋”領域へ

海洋藻場再生による生態系回復



2025年1月より、大成生コン(株)、(株)リバネス、香川県三豊市および詫間漁業協同組合の4団体と連携し、香川県三豊市の実海域にて当社が開発中の「海洋再生資材」の実証実験を開始しました。本実証実験では、藻場再生に効果が期待される、構造や成分が異なる複数の資材を海中に設置し、近年問題となっている磯焼け[※]の改善に効果的な手法を検証しています。海洋向け資材の開発は当社にとって初の試みであり、新しい事業分野への挑戦となります。既存事業で培ってきた未利用資源の活用や素材開発の技術を活かしたモノづくりで、海洋生物の保護、海洋環境の再生・保全に貢献し、自然環境との共生による持続可能な社会の実現を目指します。

※磯焼け: 浅海の岩礁・転石域において、海藻の群落(藻場)が季節的要因や経年変化の範囲を超えて著しく衰退または消失して貧植生状態となる現象



「海洋再生資材」の設置作業



資材への海藻着生の様子

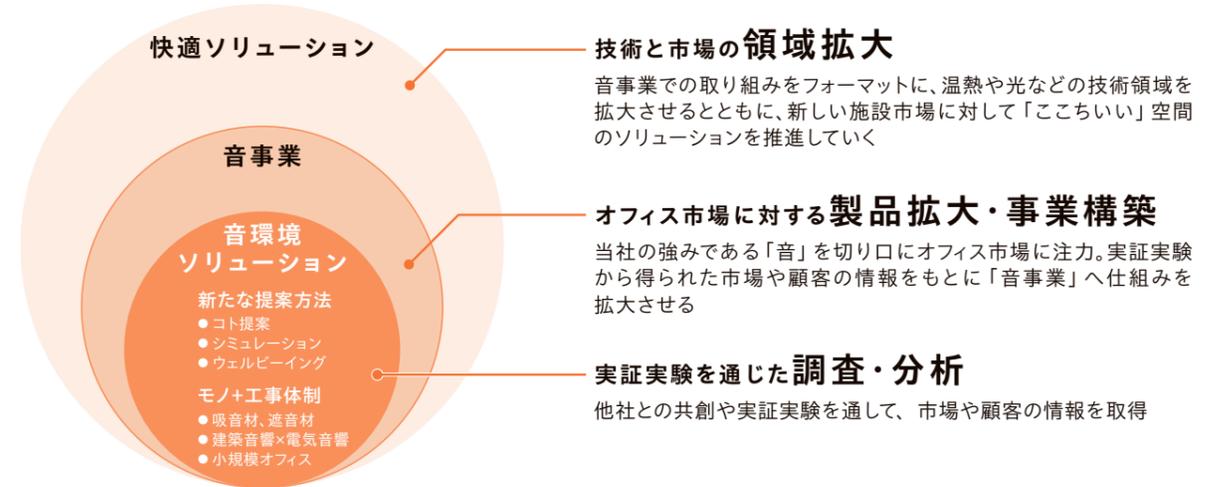
事業を通じた価値創造
公共・商業建築分野の課題解決



「音」を起点とした快適ソリューションを確立し、あらゆる環境因子・市場に展開

当社の製品力・工事力・提案力をトータルで訴求し、快適ソリューションを推進しています。最大の強みである「音」に対するニーズの高いオフィス市場を皮切りに、さまざまな市場や技術領域への水平展開を目指しています。

音×オフィス市場を起点とした戦略



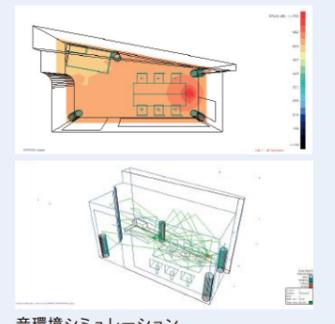
音環境ソリューションでウェルビーイングな空間を実現

当社は、電気音響に強みを持つパナソニック(株)エレクトリックワークス社(EW社)と共創し、オフィス空間の価値向上を目指した音環境ソリューションの提案を開始しました。両社の技術力を融合させ、ウェルビーイングなオフィスづくりに貢献しています。パナソニックのライブオフィス「worXlab」内の会議室に当社の吸音材を導入し、シミュレーションに基づく音の環境改善を実施。利用率の向上などの効果を確認し、体感ルームとしても活用されています。また、当社秋葉原事務所では、パナソニックEW社の植栽型環境音BOXを導入し、BGMによる会議の円滑化を図るなど、環境音による快適性向上を図っています。今後も両社で音を軸とした新たな価値創出に取り組んでいきます。

パナソニック(株)EW社との取り組み



Panasonic



音環境シミュレーション